

令和7年度 大豆栽培 こよみ

大豆の一生	5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	種まき			苗立ち			生育期			開花期			子実肥大期			黄葉期～落葉期～収穫期		

作業の流れ	準備	種まき	培土①	培土②	雑草対策など	畦間かん水	病害虫防除①	病害虫防除②	収穫	乾燥・仕上げ
	排水対策土づくり									
天候や大豆の生育に合わせて行う。										

作業名	～5月	6月	7月	8月	9月	10月～
	①排水対策 ②種子消毒 ③土づくり	④耕起・基肥施用・播種 ⑤土壌処理剤の散布	⑥1回目培土(茎葉除草剤の散布) ⑥2回目培土	⑧-1病害虫防除(ウコンノメイガ対策) ⑧-2病害虫防除(1回目) ⑧-2病害虫防除(2回目)		⑨適期収穫・乾燥調製
			⑦畦間かん水			

栽培技術のポイント

- ①排水対策
 - ・前年秋～遅くとも4月までの額縁及び基幹排水溝の設置や心土破碎により、土壌の乾きをよくする
 - ・排水口は深く掘り下げる
- ②種子消毒
 - ・紫斑病やフタスジヒハムシ等の病害虫防除のため、薬剤の種子塗沫処理を行う
 - 種子消毒農薬: クルーザーMAXX
- ③土づくり
 - ・石灰質資材を施用し、土壌pH6.0～6.5を確保する
 - 地力増進作物のすき込みや堆肥を施用する。

	肥料名	散布重量/10a
石灰質資材	マグフミン(粒)	100kg
堆肥	牛ふん堆肥	1～2 t
	醗酵けいふん	100kg

- ④耕起・基肥施用・播種
 - ・ほ場が乾いた条件で、耕起～播種の一連の作業は、1日で実施する

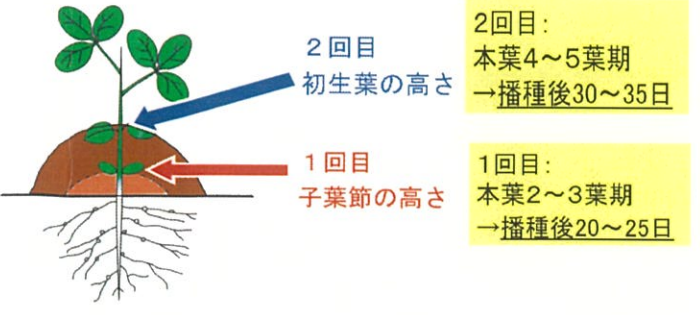
基肥	肥料名(配合比)	土壌条件	施用量/10a
	BBO84	砂壤土	30～40kg
	(10-18-24)	埴壤土	20～30kg

播種時期	播種量(kg/10a)
5月下旬～6月中旬	(大粒) 5. 5～6. 2
	(中粒) 4. 6～5. 3

- ⑤土壌処理除草剤の散布
 - ・播種後、速やかに散布する

	農薬名	適用雑草
乳剤	プロールプラス乳剤	1年生雑草
粒剤	ラクサー粒剤	1年生雑草
粒剤	トレファノサイド乳剤2.5	1年生雑草 (ツユクサ・オヤヅリグサ・キク・アブラナ科除く)

- ⑥的確な中耕培土
 - ・培土は根域の拡大、根粒の増加、雑草の抑制、排水の促進、土壌通気性の向上、倒伏防止の効果がある
 - ・2～3葉期と4～5葉期頃に2回培土を確実にを行う



⑧病害虫防除

単作大豆生育ステージ	7月		8月		9月	
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
開花	開花		開花		開花	
莢伸長期	莢伸長期		莢伸長期		子実肥大期	
基本	紫斑病		紫斑病		紫斑病	
基本	カメムシ		カメムシ		カメムシ	
薬剤防除時期	葉焼病		ウコンノメイガ		ハスモンヨトウ	
薬剤防除時期	カメムシ		カメムシ		カメムシ	
薬剤防除時期	ハダニ類		ハダニ類		フタスジヒハムシ	

・2回防除を確実に実施する

防除体系	防除時期の目安	対象病害虫	薬剤名
粉剤1回目	莢が伸びきった頃	紫斑病	Zボルドー粉剤DL
		カメムシ類	スミチオン粉剤3DL
粉剤2回目	1回目の10日後	紫斑病・カメムシ類	トライトレボン粉剤DL
液剤1回目	莢が伸びきった頃	紫斑病	ブランドム乳剤25
		カメムシ類	スミチオン乳剤
液剤2回目	1回目の10日後	紫斑病	トライトレボン乳剤
		カメムシ類	トレボン乳剤